【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立七山小中学校

1　前年度 評価結果の概要	・令和4年度より小学校は県の外国語教育の研究指定を受け、「国際理解」を大きなテーマとして小中ともに校内研究に取り組み、研究発表会を実施することができた。授業づくりにおいては、小中共に単元計画と単元のゴールを明確化を図り、全職員の授業公開と授業研究会等を行い、指導力向上をめざしてきた。今年度は、「唐津の学びスタイル」に沿っての取組の中で、ラーニングマウンテンを活用した単元計画及びゴールの明確化を充実させ、児童生徒の思考力、判断力、表現力を高め学力向上を図っていきたい。 ・コロナ禍の中での各種の制限がなくなり、各行事や体験活動等を以前のように実施することができるようになった。体育大会や文化発表会など、保護者や地域の方に多数参観していただくことができた。縦割り班での清掃活動や全校レク、児童生徒会によるボランティア活動など、児童生徒も小中一貫校のよさを実感できている。今後も児童生徒会活動を中心にした自治的活動や体験活動の充実を図りたい。 ・生徒指導面においては、定期的なアンケートと、教育相談週間を設け個別面談を実施し、SCやSSWなどの専門家と連携し、丁寧な対応を行ってきた。未然防止に努め、学級経営や組織的な生徒指導の充実を図りたい。 ・総合的な学習で地域のよさの再認識や異文化理解を図り、郷土愛や国際理解を深めることができた。今後も、教科指導や特別活動とも関連させながら表現力やコミュニケーション力を養い、自らの考えや意見を発信し、行動できる児童生徒の育成に努めたい。
2　学校教育目標	**「感謝の心を持ち、自立に向かう子どもの育成」** **～ お互いを「思いやり」、一人一人が「輝き」、小中一貫教育を通して自ら学び・考える力を伸長し、自己実現を目指す ～**
3　本年度の重点目標	**①　学力向上** **②　生徒指導と支援の充実** **③　志を高める教育**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○単元のゴールを明確にした単元計画による授業づくりができたという教師　(90%以上) ○児童生徒が自分の考えを表現する場を設定している教師　(90%以上)	・交流活動を仕組んだ授業構成の工夫。 ・ラーニングマウンテンによる単元計画、及びゴールの明確化。 ・一人一授業公開を計画的に実施。	B	・ゴールを明確にした授業づくりや、交流の場の設定については共に84%であった。全教科、全単元においてLMを用いることはできなかった。 ・自己の思いや考えを表現する場の設定はしていたが、一人一人に表現できる力をつける方法を検討していきたい。(小) ・全職員が一人一回の公開授業を行い、交流活動の工夫について教科の垣根を超えて共有することができた。(中)	B	・小学校は単元の最初の時間に子どもによるLMの設定を行っていること、中学校は「踊り場」と呼んでいる個別最適化の時間の設定に努めてきたことや、タブレットの有用性について分かった。 ・LMで見通しを立てることが、子どものやる気や学習姿勢をつくっていると感じた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権について真剣に考えることができる児童生徒　(90%以上) ○他者の多様な考え方を聞き、認めることができる児童生徒　(90%以上)	・人権教室の実施。 ・発達段階や学級の特性に適応した人権感覚を磨く。 ・気づき、考え、議論し、高めあう道徳授業の実践。	A	・月替わりで話し手を当番制にしたことで、色々な分野の事象に対して、様々な切り口で話をすることができた。そのため生徒たちは真剣に話を聞き、人権に対する意識が向上した。(中90.9%) ・取り扱う話題によっては朝の時間から1校時まで人権集会を設定した。複数名の教師が場面ごとに役割を受け持ち、会を進めることで変化が生まれた。また、話し合いやゲームを取り入れ、自分事として捉えやすいような手立てを仕組んだ(小95%) ・他者理解をねらい意見交流の場を多く設けた。(92%)	A	・中学生では、誹謗中傷、偏見、ジェンダーの問題、子どもの権利条約などの社会問題に切り込んで扱っていることが分かった。小学生では発達年齢に応じた工夫がされていると感じた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見、早期対応(100%)	・各種アンケートを実施し、児童生徒理解に努める。 ・日常の児童生徒観察に努める。 ・チームでの早期に対応を行い、保護者との連携を図る。	A	・いじめに対しての早期発見と早期対応については、アンケートや聞き取りをもとに、職員で共有しながら行うことができた。(100%)必要に応じて、SCとの面談を設定してきたが、教師や保護者の面談も行い効果的であったと感じる。一方で、早期対応についての保護者アンケートでは、「そう思う37%」「ややそう思う41%」と80%を下回っている。	A	・保護者が学校全体を把握して回答することは難しいだろう。身近な子どもについて想起した回答かもしれない。 ・子どもが、先生に相談することでいじめられるかもしれないと思わないようにしてほしい。 ・制服の検討など時代に沿った対応が必要であると感じた。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒　(80%以上) ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」に肯定的回答をした児童生徒　(80%以上)	・児童生徒の自己肯定感を高める。 ・互いを認め合い、協力し合う集団作りに努める。 ・キャリアパスポートの活用 ・感謝の気持ちを伝えたり将来へ向かう志をもたせたりする。 ・「ほめるからはじめる」ことを意識した声かけ。	A	・目標を持った学習活動を行うことで、活動を振り返ることができ、次回の活動に生かそうという前向きな姿勢が見られてきた。また、実際の職場を体験することで、将来へ向けての展望を持つ良い機会となっている。(87%) ・直接の言葉かけだけではなく、間接的な言葉かけによる称賛も行い、より多くの教師から認められていると感じることができる学習環境づくりができてきた。(90%)	A	・9割近い子どもが夢や目標を持っていることは嬉しい。 ・小中の先生方がいて、いろいろな先生から声をかけられることはよいことである。
	○異年齢集団の活動の充実	○小学生から中学生まで一緒に生活する学校でよかったと思う(児童生徒、保護者、学校職員、地域関係者　　各90%以上)。	・児童生徒会本部と専門委員会とが連携して自治活動を行い、校内の行事を充実させる。 ・歓迎遠足、体育大会、ボランティア活動等を通して、異年齢集団での活動を充実させる。	A	・小中学校である利点を感じる割合(児童生徒95% 保護者100% 職員96%) ・春の遠足をはじめ、様々な縦割り活動を仕組んできた。入学したての小学1年生に対し、優しく接し面倒を見る中学生の姿があった。また、そうする姿を小学5・6年の児童が見ることができ、自然と優しさの連鎖が生まれている。 ・児童会も生徒会のように活発に活動できるよう、児童が主体的に活動できる場の設定が今後必要と考える。	A	・小中一貫の中、9年生が主導して学校を動かしていくことが多いのだろう。小学校独自の行事等で、6年生が主導する場も増えるとよい。
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒(小学校60%以上、中学校80%以上の数値で学校の実情に応じて設定) ②規則正しい生活を送っている児童生徒が(80%以上) ❸「健康に良い食事をしている」児童生徒　(80%以上)	・休み時間の運動場、体育館の割り当てをし、施設を有効活用させる。 ・なわとびやマラソン大会等の競技会を実施する。 ・発達段階に応じて、生涯健康な生活が送れるよう基本的生活習慣を身に付けさせる。 ・食事に対する意識と摂取栄養素に対する知識を高めさせ、好き嫌いなく、マナーを守った食事ができるようにする。	A	・体育館使用日には、急いで鍵を借りに来て、体育館へ向かう児童生徒の姿がある。また、運動場の遊具では、遊びのきまりを守り、安全に遊ぶ姿が見られる。運動週間の定着(小85% 中94%) ・ 健康に良い食事をしているという児童生徒も多く、家庭も協力的であることが分かる。(90%) ・大半の子どもたちは規則正しい生活を送ることができているが、起床、就寝の時間が明確に決まっていない児童生徒がいる。生活リズムが乱れて体調不良を起こす児童生徒には個別に話をしたり、血圧・身長・体重等を測定している。(73%)	A	・食が細い子どももいるようだが、家庭で、例えばお菓子でおなかを膨らませているといったことはないだろうか。家庭での意識の向上も必要である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録管理ソフトの有効活用 ・計画的休暇取得の推進 ・部活動一斉中止日及び定時退勤日の設定。 ・効率的な会議の実施と整理整頓による業務の効率化。	B	・業務管理ソフトを全職員が使用しているため、勤務時間の把握を確実に行うことができた。時間外勤務時間で基準を大きく上回る職員が減少したことは成果として評価できる。 ・中学校の定時退勤日はほぼ実現できているが、小学校担任は、どうしても放課後にしか時間がとれない場合が多く、個人差が見られた。	B	・小学校の先生が定時退勤できにくいようだが、毎日あまり遅くまで残っているわけではないと分かった。 ・先生が元気であってほしい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の視点を取り入れた指導	○特別支援教育に関する視点が広がったと回答した教員　(80%以上)	・こども支援会議の方法改善 ・インクルーシブ教育の視点に立った指導方法の情報共有	B	・こども支援会議は気になる児童生徒の状況を共有することができ、適切に指導に活かすことができた。 ・一方、インクルーシブ教育の視点に立った指導法については、専門の講師を招聘したり、子ども支援会議の機会を捉えて情報提供するなど、計画的、継続的な研修が必要だった。	A	・教員のアンケート結果が80%以上であったなら、「A」でよいと思う。 ・若い先生は経験値を上げていくことが大切。でも、子どもの人数が少ないので丁寧に対応されていると感じた。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
◎郷土を誇りに思う教育	○地域のよさを知り、伝統や文化に対する理解を深める活動の充実	○総合的な学習の授業で、地域教材を取り入れた授業を行う。 ○七山、唐津、佐賀県に誇れるものがあると答える児童生徒　(80%以上)	・地域の方を招聘した講演会や体験活動の実施 ・地域の良さを理解し、発信する活動の工夫	A	・ふるさとには誇れるものがあると感じている児童生徒(90%)　外部講師を取り入れた学習について玄関の掲示板に写真を掲載したり、活動の様子をスライドで流していたりと、常に児童生徒が目にできる場を設定している。地域愛を育む一助となっている。 ・指導者がねらいを明確にしたうえで指導を行うことを意識できた。	A	・9年生が自分で紙を漉いた卒業証書を卒業式で受け取り、見送りのあと筒から出して写真を撮っていたという話は嬉しい。 ・何を「誇れるもの」と思っているのだろうか、聞いてみたいと感じた。
○危機管理	○安全・安心な教育活動の推進	○緊急連絡体制としての「はなまる連絡帳」アプリ登録　(100%) ○安全点検の完全実施　(100%)	・アプリ登録の確認 ・未登録保護者への連絡 ・実効性のある避難訓練の実施。	A	・アプリ登録は100%を達成できており、緊急時の連絡に利用価値が高い。また、欠席連絡もスムーズにできており、学校全体の児童生徒の状況把握にも役立っている。 ・安全点検を確実に行い、危険箇所の把握と対応を行うことができた。(100%)	A	・欠席連絡や緊急時の連絡がスムーズにできていることは良い。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・LMを用いたことで、子どもたちが展望を持ち学習に取り組む事ができた。今後も継続していきたい。また、小学校中学校で共通して、グループ学習を取り入れた授業を仕組むことで、自己の考えや思いを表現できると感じる児童生徒は増えた。今後はすべての児童生徒が自己表現できる力を育成していくような手立てを講じていきたい。 ・生徒指導面においては、より一層、児童生徒との関わりを大切にしていく必要がある。成長段階を考慮しつつ、児童生徒の良さを認め、的確に称賛していく姿勢を持ち続けることで、自己肯定感を高めていきたい。 ・より一層、小中学校の利点を活かすべく、小学生に中学生のリーダーシップに目を向けさせ、小学高学年の責任感の育成を図り、学校全体の活性化を目指したい。 ・総合的な学習の時間をはじめ、各場面で地域教材や外部講師を取り入れた学習活動を仕組んだことで、郷土愛を育むことができた。今後は、教師が系統性を重視して学習のねらいを見定め、データストックを活用してより良い活動を仕組んでいきたい。